第１回里山勉強会レジュメ　　2004年(平成16年)2月14日

# 我孫子市岡発戸（おかほっと）・都部（いちぶ）での谷津ミュージアムづくり

我孫子市手賀沼課主幹　石　原　正　規

（１）岡発戸・都部の谷津の現状

対象面積は約36.7haで、その内水田耕作面積は約9.8ha、山林は約6.5haで、休耕田・放棄水田は約8.8haも広がっています。しかし、上流部では湧水のみで耕作している農家もいます。ただ、地権者202名のうち谷津での農業従事者は24名しかおらず、今後どのように水田耕作を継続するかが課題です

その岡発戸・都部の谷津の魅力は、谷津の上流部は耕地整理がおこなわれず、かつての水田形態が残っています。しかし、湧水が減り、湿地・水田が減少し、両性・は虫類の生息は少なくなってきていますが、ホタルやアカガエルが生息し、多様な生物の復活の可能性があります。この谷津をフィールドとして、孫子の世代まで引き継ぐことが出来るような農村環境の復元を図ることができます。

（２）事業着手までの経過

1982年(昭和57年)ごろから区画整理準備組合が設立されていましたが、市としては1987年(昭和62年)第二次総合計画で「水と文化の軸」と位置づけましたが事業化まで至りませんでした。

その後、1997年(平成9年)に「手賀沼を誇れるまちづくり」を策定し、シンボルプロジェクトとして「谷津ミュージアム」を提唱し、1999年(平成11年)には市として岡発戸・都部は市街化区域編入を行わない方針を確立しました。

それを受け、環境基本計画と第三次総合計画で谷津ミュージアム事業を位置づけ、2002年度(平成14年度)から事業を開始しました

（３）事業の内容

まず、市民との共同事業として、自然観察会、農道・雑木林の草刈、通信の発行、写真展の開催、谷津学校の運営、植生・樹木・昆虫調査、湧水・湿地の管理などを行っています。農業者支援ため、谷津田保全支援補助制度(デカップリング制度)を創設し、水田耕作に対して 2 万円/反の助成をしています。また、拠点整備事業として多自然型護岸改修モデル事業(延長100m)、ホタル・アカガエルの里(総面積約1.9ha)、(仮称)たんぼ広場(約3,500㎡)、ふれあいスッポト(約800㎡)などの整備に着手しました。

（４）事業の課題

事業を進める上での課題は、①農業者・地権者の理解、②市民活動との連携と谷津ミュージアム友の会づくり、③自然環境回復のための整備方法と人の関わり方、④休耕田・放棄水田の復田、⑤全市民への谷津ミュージアムづくりの周知、⑦財源の確保などです。